

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：企画調査費 項：総合文化推進費

目：芸術文化行事等開催費

## 事業名 岐阜県青少年美術展開催費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 県民文化局文化創造課 文化創造係 電話番号：058-272-1111 (内 2465)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,993 千円 (前年度予算額：3,993 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,993	0	0	0	0	0	0	0	3,993
要求額	3,993	0	0	0	0	0	0	0	3,993
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催中止となった。また、県内の展覧会においても、中止や延期、または規模を縮小しての開催となっている。青少年の作品発表の場と文化芸術に触れる機会が減少した。よって、青少年の文化芸術に対する興味・関心を高めていく展覧会の実施を必要とする。
- 平成30年度より、最優秀賞を選定し表彰式を実施している。このことにより、小中高生の美術等の能力向上に対する意欲が高まってきている。さらに、岐阜県美術館長選定賞「ナンヤローネ賞」を設定してきたことで、青少年の文化芸術への興味・関心も高まっている。本県美術の普及のため、広く県内から作品を公募し、より多くの参加校、参加者を募り、多くの児童・生徒に観覧する場を設けることで、さらなる向上を目指す。

### (2) 事業内容

- 青年部5部門 (絵画、デザイン、立体、書道、写真)、少年部2部門 (絵画、デザイン、書写) の作品を公募
- 岐阜県美術館において、全ての入賞・入選作品を展示
- 青年部少年部各部門の最優秀賞を選定し表彰式を実施
- 岐阜県美術館長選定による「ナンヤローネ賞」を選定

### (3) 県負担・補助率の考え方

文化芸術を創造する人づくり、文化芸術振興の環境づくりに向けた対策として、県の負担は妥当である。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	65	少年部一次選定委員謝金、運営委員謝金、選定委員会謝金
旅費	452	青年部、少年部選定委員旅費、運営協議会委員旅費、業務旅費
需用費	479	消耗品費、印刷製本費(賞状、応募要項等)
役務費	27	通信運搬費、案内業務
委託料	2,939	作品輸送・展示・会場設営・会場撤去一式、写真撮影代、看板代
使用料	31	バロー文化ホール使用料
合計	3,993	

### 決定額の考え方

# 業 評 価 調 書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

本県美術の普及のために、広く県内から作品を公募し、一般に公開している。少年部は、県内出品校数350校、応募数を、43,000点、青年部は、出品校数80校、出品数1,600点を目指す。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目 標	達成率
少年部応募数	42,848 (H30)	38,868 (H28)	40,413 (H29)	39,520 (R1)	43,000 (R3)	91.9%
青年部応募数	1,554 (H30)	1,608 (H28)	1,538 (H29)	1,434 (R1)	1,600 (R3)	89.6%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（1）岐阜県青少年美術展会期…岐阜県美術館

- ・展覧会 6月27日（土）～7月5日（日）
- ・最優秀賞表彰式 6月28日（日）

（2）岐阜県青少年美術展入場者数

- ・0名

※岐阜県青少年美術展を上記の予定で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

前年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から岐阜県青少年美術展を中止したが、これまで本県美術の普及のため、広く県内の幼児から高校生の作品を公募し一般に公開してきた。

前々年度は青年部1,434点、少年部39,520点の応募があった。また、8,504人の入場者数があり、特に中学生、高校生の入場者が増加し、青少年の文化・芸術に対する興味・関心は高まってきた。幼稚園や高校が教育の一環として観覧にくることも多い。観覧者からは、「次の作品づくりの参考になった。」「これだけ多くの作品を見られる展覧会を続けてほしい。」との意見をいただいていた。最優秀賞の設定と表彰式の開催に対しても「制作の励みになる。」「次回も出品したい」との意見もいただいた。

## 2 事業の評価と課題

(事業の評価) ※前年度は開催中止のため、前々年度の実績による

・ 事業の必要性 (社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か) ○ : 必要性が高い      △ : 必要性が低い	
(評価) ○	子どもたちが作品を発表する機会、鑑賞する機会、また表彰を受ける機会として、園や学校及び県内の皆様からの支持は高い。幼児期から青年期にかけての能力開発の視点からも、本県美術の普及と表現力の育成につながるため、事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) ○ : 概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △ : まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	青年部 1, 434点、少年部 39, 520点と多数の応募がある。応募数全体は、多少の増減はあるものの増加傾向である。本県美術の普及と表現力の育成という意味では、事業効果が十分に表れている。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) ○ : 効率化は図られている      △ : 向上の余地がある	
(評価) ○	少年部では、各県事務所において、1次選定が行われ、点数を絞り、本選定を行いやすくしている。 本選定においても、雇員を効果的に配置し、できるだけ広く会場を使用して選定作品を並べ、多くの作品を短時間で選定できるよう効率化を図っている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 応募数が増えても会場の展示数には、限りがあるため展示数を増やすことは難しい。最優秀賞を設定し表彰式を行うことで、観覧者数を増やすことができた。展覧会及び表彰式等の開催告知をより幅広く行い観覧者の増加を目指す。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 子どもたちが作品を発表する機会、鑑賞する機会、また表彰を受け制作意欲を高める機会として、園や学校及び県内の皆様からの期待は高い。今後も、応募者を増やすことと観覧者数の増加を求め、事業の工夫改善を図りながら継続していきたい。また、新型コロナウイルス感染症予防の対策を講じて実施していく。
---

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	